

補助事業番号 2023M-129  
補助事業名 2023年度 福祉機器の整備 補助事業  
補助事業者名 社会福祉法人 守里会

1 補助事業の概要：特別養護老人ホームにおける特殊浴槽の整備  
昇降式介護浴槽（片袖）HK-255G-U2・電動昇降ストレッチャーRA-255S・担架RA-355S  
の購入設置

2 予想される事業実施効果

身体的重度な入居者の安全な入浴を可能にする。また、一人ひとりにあった入浴時間  
や入浴方法で快適な時間が得られるとともに、様々な感染予防にもつながる。専門機器  
の導入により身体的負担の大きい入浴介助も容易になり支援を行う職員の負担軽減も  
図られる。

3 本事業により導入した機器

① 特殊浴槽：<https://www.syurikai.com/wp/archives/609>

設置場所：特別養護老人ホーム一樹



浴室全景



本体のみ



ストレッチャーのみ



機器

## ②本事業に係る印刷物等

守里会新聞（10月号）に掲載

2023  
10  
10  
守里会新聞  
SYURIKAI NEWS PAPER  
http://www.syurikai.com



### 10月の強化目標 「ちょっと待って」はNGワード！！

「ちょっと待って」だけでなく、「他の方の〇〇してから行きませぬ」と返しましょう！  
「ちょっと」の感じ方は人によってまちまち。「いつまで待たせるの！」と怒っている人も、もしかして、待たせる理由を知ってれば、もう少し待ってもらえるかもしれません。他の方の排泄介助が終わったら、傷の処置が終わったら、着替えが済んだらなど、「それ」が終わったら来てくれると分かるだけで、意外と納得していただけるものです。

### 01 全国の気になるニュース

#### 利用者がトイレで転倒したことにつき、安全配慮義務違反が認められた事例③

8月号の続き。事故概要は6、8月号を確認ください。

#### 《事例から学ぶ施設対応》

この事例のように、利用者から「ここはいから」というようなことを言われることは日常よくあることと考えられます。しかしながら、この判断でも言われているように、介護職員は「介護のプロ」で、利用者の言い分をそのまま「はいそうですか」と、聞くわけにはいきません。この事例の利用者であればそのアセスメントから転倒の危険性についてハッキリしているわけですから、「ここでは介助なしでのトイレまでの歩行はしない」という判断ができたと考えられます。

利用者のアセスメント結果を介護職員がしっかりと把握をしつつ、そのアセスメントに見合った対応をすることが重要といえるでしょう。実際にはこの事例のように一度の誤りのみで引き下らず、誠意をもって、根拠よく説明することが重要になるでしょう。しかし、高齢者であれば、それでも聞き入れられないという場合も多々あり、利用者の意思を無視してまでケアは、尊厳を傷つけるものとして実施することは難しいでしょう。

もう一つ、この事例は、通常利用者が使用するトイレとは異なる、身体障がい者用の広いトイレであったことについて、職員がどの程度リスク認識をしていたかということも考える必要があるポイントです。

おそらく、この事例の利用者は、転倒することなく排泄できていたことが、介助の拒否へとつながったので

しょう。利用者がトイレ内の歩行介助を拒否したとしても、介護職員が「ここはいつものトイレと異なり、つかまり歩行が難しいところであるから見守りが必要なのだ」という説明を試みる必要があります。

このような意識を持つには、日頃から、施設内の危険箇所の認識を持つような体制が必要と考えられます。施設内で提出されたヒヤリ・ハット情報をもとに、トイレの場所別の転倒発生などについては報告されたことがあるでしょうか。せつかつヒヤリ・ハットの報告制度があったとしても、リスクを洗い出すという本来の目的が使われることによって、見守りの度合いを変えなければならないという職員の意識が生まれる手助けになると思います。

そのうえで「このトイレだけは見守りが必要です」といえることが可能ではなかったでしょうか。そのうえで、利用者が拒否をした場合は、それ以上本人の意思を無視して見守りをすることはできません。ただし、どれだけ意を尽くして危険であること、心配であることを説明したのか、それに対して利用者がどのように受け止め理解したのか、その結果どのように判断したのか、そのことをしっかりと記録に残しておくことが重要になります。また、ご家族に対しても、「見守りが必要であるのに拒否されることがあり、心配をしていますが、ご家族からも説明をお願いします」という説明がされていた場合、転倒したことに対して裁判にならなかつたかもしれません。

## 02 技術の情報共有 「褥瘡について②」

褥瘡になりやすい体の部位はどこでしょうか？

骨が突き出した部位は強く圧迫されて、褥瘡ができやすくなります。褥瘡のできやすい部位は、寝ているからだの向きや姿勢によって違ってきます。



上記：日本褥瘡学会編「在宅褥瘡予防・治療ガイドブック第3巻」 照林社、2015より引用

## 03 福利厚生

### 生活習慣病予防健診について。

協会けんぽが毎年度実施している生活習慣病予防健診に申し込み、令和5年度から自己負担額が下がりました。例えば生活習慣病予防健診の中で一般健診の場合、検査項目が約30項目あり、軽減前で見守りが高7,169円であったものが、軽減後で最高5,282円になりました。一般健診以外にも子宮頸がん検診など複数の種類があり、種類によって受診可能な対象者が異なります。生活習慣病予防健診の詳細な内容や受診の際の注意事項は、特設サイトのQRコードを読み取るか、全国健康保険協会のホームページをご確認ください。



## 04 本部からの通信

### 転倒予防・腰痛予防の取組について。

厚生労働省にて、職場での転倒予防・腰痛予防の取組が紹介されています。webサイトでは、西川まよしがリーダーとなって、マツカールラブリー、アインシュタインといった人気芸能人が、転倒・腰痛予防の方法を分かりやすく紹介しています。介護施設の実業者・労働者向けのリーフレットもダウンロードできますので、一度ホームページをご確認ください。



## PICK UP NEWS!

### 公益財団法人 JKA（競輪とオートレースの補助事業）様より補助金をいただきました。

公益財団法人 JKA（競輪とオートレースの補助事業）さんより特殊浴槽購入に際し補助金4,867,500円を補助していただきました。8月に開所した特別介護老人ホーム一棟に設置され、多くの入居者が利用しておられます。ゆっくりと湯船につかることができ、皆さんとても喜んでおられます。職員さんも介護の負担軽減が図られたことに、採択していただいたJKAさん心から感謝です。



## 4 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 社会福祉法人 守里会（シュリカイ）

住所： 〒760-0036

香川県高松市城東町1丁目1番46号

代表者： 理事長 松木孝和（マツキタカカズ）

担当部署： 法人本部（ホウジンホンブ）

担当者名： 本部長 和泉安津砂（イズミアツサ）

電話番号： 087-813-0778

F A X： 087-813-0832

E-mail： [izumi@syurikai.com](mailto:izumi@syurikai.com)

U R L： <http://www.syurikai.com>